

### (3) 地域・家庭との連携

学校での学習の様子を伝えるとともに、「いのち」について過程でも考える機会をもってほしいと願い、学年便りに「学習の足あと」のコーナーを設け、同植物の観察の様子や観察から考えたことを紹介した。

私はドングリを調べました。ドングリの中には白いものが入っています。それを守るために、外側からがっているのかなあと思いました。このことはヘチマのたねのつくりと同じだと思います。植物も自分のためにがんばっているのかなあと思いました。  
(M. F)

チカラシバのたねが体にくっついてどこかに運ばれ、新しい芽を出すことや、たくさんたねを作って仲間をふやすことが分かりました。生き物はいろんな工夫をして生きているんだなあと思いました。  
(W. H)

☆保護者の声は…

家でも自然のいのちの素晴らしさについて話し合いました。

「自然と触れ合う活動」をこれからも取り入れてほしい。

### 3 成果と課題～より高い目標に向けて～

#### (1) 成果

- ・ 年間を通して学校の周りの草花や樹木、昆虫の観察や、へちま、ダイズの栽培活動を気温の変化と関係づけながら行った。このことが、季節の変化にともなう生き物の成長や変化を実感するとともに、生き物の「生命のつながり」を意識することにつながった。
- ・ 理科という教科本来のもつねらいに加え、道徳教育の視点から見た「学びの価値」を意識して学習を進めたことにより、生き物を単に学習の対象と見るのではなく、自然の生き物のたくましさや生きる知恵について考え、生命の尊さを感じることができた。

#### (2) 課題

- ・ 動植物の観察の様子や、観察から考えたことなど、命を大切に育む教育の取り組みの様子を学年便りで紹介したり、いのちの大切さについて家庭でも話題にすることを希望したりしたが、一方的な情報発信に終わった間がある。保護者の声を今後の指導に生かしたり、家庭への啓蒙をはかるための工夫をしていかななくてはならない。
- ・ 道徳や、特別活動、他教科との関連をなお一層図り、それらが互いにどのようにかかわり合うのか、そして子供の「いのち」に対する意識がどのように高まっていくのかを考えた単元構想をより工夫していきたい。